△ △ □ 課題問題 中間期(6月) △ △ △

★提出期日 2019 年 6 月 10 日、工学系は「工学」問題を含めすべての解答をすること、文系はこの「工学」問題を含めてもよいとします。解答には「別紙」を用いること。

問題 1 (i) 逆三角関数の和 $\sin^{-1}\frac{3}{5} + \sin^{-1}\frac{4}{5}$ を求めよ。

(ii) $\sin\left(2\cos^{-1}\frac{1}{5}\right)$ の値を求めよ。

工学 (iii) $\tan\left(\cos^{-1}\frac{3}{5} + \sin^{-1}\frac{12}{13}\right)$ の値を求めよ。

ヒント: 2つの和を計算するには、それぞれは角度を表すから、その値をもとめてから角度の和に対する値、 たとえば加法定理などをもちいて、その角度から、数値を計算する。合成関数であるときには、まず定義を範囲に注意して角度をもとめて、その角度の数値を計算する。

問題 2 数列の問題

- (i) 数列 $\{\sqrt{n^2+2n}-n\}$ の極限値をもとめよ。
- (ii) 数列 $\left\{\frac{1}{(2n+1)(2n+3)}\right\}$ の第 $1,2,\cdots,n$ 項までの和を求め、その値に対して $n\to\infty$ とした極限値をもとめよ。
- 工学 (iii) 数列 $\log\left(1-\frac{1}{(n+1)^2}\right), n=1,2,\cdots,$ の n 項までの和を求め、その値に対して $n\to\infty$ とした極限値をもとめよ。

ヒント: (i) 平方根の差に対する数列には分数をもちいた表現にする。 $\sqrt{a}-\sqrt{b}=\frac{a-b}{\sqrt{a}+\sqrt{b}}$ などの変形してから、極限を考える。 (ii) 2つの分数の積をそれぞれの差にして考えよ。 (iii) 対数の性質。

問題 3 関数の極限を計算せよ。

(i)
$$\lim_{x \to 1} \frac{x^3 - 3x^2 + 3x - 1}{x - 1}$$
 (ii) $\lim_{x \to \infty} \sqrt{x} \left(\sqrt{x + 1} - \sqrt{x} \right)$ (iii) $\lim_{x \to 1} \frac{\sqrt{x} - 1}{x - 1}$ 工学 (iv) $\lim_{x \to 2-0} \left([x^2] - [x]^2 \right)$ 工学 (v) $\lim_{x \to 0} \frac{\log(1 + x)}{x}$ 工学 (vi) $\lim_{x \to \infty} \frac{\log(1 + x)}{x}$

ここで (iv) の関数 [a] は a を越えない最大の整数、ガウス記号。 $x \to 2-0$ は左側極限(x=2 へ負の値から近づく), $x \to 2+0$ は右側極限(正の値から近づく)

ヒント: (iv) $x=1.5,1.6,\cdots,1.9,1.95,1.99$ などと具体的に計算してみよ。2 乗と整数化の順序の違いに注意する。また右側極限も考えればヒントとなる。(v) はネイピア数の定義に関するもの。(vi) は x の値の増加にもとづく、対数の増加変化を比較する。 $x=10,10^2,10^3,\cdots$ としていくと極限値は予想されるから、これを証明する。

問題 4 つぎの関数の微分をおこなえ。(導関数をもとめること)

(i)
$$y=\sqrt{x}$$
 (ii) $y=\frac{ax+b}{cx+d}$ (iii) $y=\sin\left(2x+\frac{\pi}{4}\right)$ 工学 (iv) $y=\sqrt{x+\sqrt{x}}$ 工学 (v) $y=\log\left(x+\sqrt{x^2+2}\right)$ 工学 (iv) $y=\sin^{-1}\sqrt{1-x^2}$

問題1

(i) 逆三角関数の和
$$\sin^{-1}\frac{3}{5} + \sin^{-1}\frac{4}{5}$$
 を求めよ。

(ii)
$$\sin\left(2\cos^{-1}\frac{1}{5}\right)$$
 の値を求めよ。

工学 (iii)
$$\tan\left(\cos^{-1}\frac{3}{5}+\sin^{-1}\frac{12}{13}\right)$$
 の値を求めよ。

問題
$$1$$
 の解 $\frac{1}{5}$ (i) $\sin^{-1}\frac{3}{5}=\theta_1$, $\sin^{-1}\frac{4}{5}=\theta_2$ とおくと、 $\sin\theta_1=\frac{3}{5}$, $\sin\theta_2=\frac{4}{5}$ で正の値であるから、 $0<\theta_1,\theta_2<\frac{\pi}{2}$ となる。加法定理 $\sin(\theta_1+\theta_2)=\sin(\theta_1)\cos(\theta_2)+\cos(\theta_1)\sin(\theta_2)$ へ値を代入すると、 $\sin(\theta_1+\theta_2)=\frac{3}{5}\times\sqrt{1-(\frac{4}{5})^2}+\sqrt{1-(\frac{3}{5})^2}\times\frac{4}{5}=1$ となる。よって $\theta_1+\theta_2=\frac{\pi}{2}$

(ii)
$$\cos^{-1} = \theta$$
 とし、 $\cos \theta = \frac{1}{5}$ であり、 2 倍角の式から、 $\sin(2\theta) = 2\sin\theta\cos\theta = 2\sqrt{1-(\frac{1}{5})^2} \times \frac{1}{5} = \frac{4\sqrt{6}}{25}$

(iii)
$$\cos \theta_1 = \frac{3}{5}$$
, $\sin \theta_2 = \frac{12}{13}$ として、 $\tan \theta_1 = \frac{\sin \theta_1}{\cos \theta_1} = \frac{\sqrt{(1 - (3/5)^2)}}{3/5}$, $\tan \theta_2 = \frac{12/13}{\sqrt{(1 - (12/13)^2)}}$ を求

めておく。
$$\tan(\theta_1+\theta_2)=\frac{\tan\theta_1+\tan\theta_2}{1-\tan\theta_1\tan\theta_2}$$
 に代入すればよい。答えは $\tan(\theta_1+\theta_2)=-\frac{56}{33}$

問題 2

- 数列 $\{\sqrt{n^2+2n}-n\}$ の極限値をもとめよ。 数列 $\left\{\frac{1}{(2n+1)(2n+3)}\right\}$ の第 $1,2,\cdots,n$ 項までの和を求め、その値に対して $n\to\infty$ とした極限値
- 工学 (iii) 数列 $\log\left(1-\frac{1}{(n+1)^2}\right), n=1,2,\cdots,$ の n 項までの和を求め、その値に対して $n\to\infty$ とした極限値をもとめよ。

問題 2 の解 (i) 分数有理化の逆を考える。
$$\sqrt{n^2+2n}-n=\frac{(n^2+2n)-n^2}{\sqrt{n^2+2n}+n}=\frac{2}{\sqrt{1+2/n}+1}$$
 となるから、

答えは $\lim_{n\to\infty} = \frac{2}{\sqrt{1+0}+1} = 1$ となる。

(ii)
$$\frac{1}{(2n+1)(2n+3)} = \frac{1}{2} \left[\frac{1}{2n+1} - \frac{1}{2n+3} \right]$$
 であるから、

$$\sum_{n} \frac{1}{(2n+1)(2n+3)} = \frac{1}{2} \left[(\frac{1}{3} - \frac{1}{5}) + (\frac{1}{5} - \frac{1}{7}) + \dots + (\frac{1}{2n+1} - \frac{1}{2n+3}) \right]$$
$$= \frac{1}{2} \left[\frac{1}{3} - \frac{1}{2n+3} \right] \to \frac{1}{6}$$

(iii) 第 k 項を計算すると、 $1-\frac{1}{(k+1)^2}=\left(1-\frac{1}{k+1}\right)\left(1+\frac{1}{k+1}\right)=\frac{k}{k+1}\times\frac{k+2}{k+1}$ であるから、それぞれの項は対数となってるから、対数の和は積の対数となる。したがって

$$\dots + \log(1 - \frac{1}{(k+1)^2}) + \log(1 - \frac{1}{(k+2)^2}) + \dots = \log\left(\dots \times \frac{k}{k+1} \cdot \frac{k+2}{k+1} \times \frac{k+1}{k+2} \cdot \frac{k+3}{k+2} \times \dots\right)$$

もっと具体的に表すと

$$\log \frac{1}{2} \frac{3}{2} + \log \frac{2}{3} \frac{4}{3} + \log \frac{3}{4} \frac{5}{4} + \dots + \log \frac{n}{n+1} \frac{n+2}{n+1} = \log \frac{1}{2} \frac{n+2}{n+1} \rightarrow \log \frac{1}{2} = -\log 2$$

問題3

(i)
$$\lim_{x \to 1} \frac{x^3 - 3x^2 + 3x - 1}{x - 1}$$
 (ii) $\lim_{x \to \infty} \sqrt{x} \left(\sqrt{x + 1} - \sqrt{x} \right)$ (iii) $\lim_{x \to 1} \frac{\sqrt{x} - 1}{x - 1}$ 工学 (iv) $\lim_{x \to 2 - 0} \left([x^2] - [x]^2 \right)$ 工学 (v) $\lim_{x \to 0} \frac{\log(1 + x)}{x}$ 工学 (vi) $\lim_{x \to \infty} \frac{\log(1 + x)}{x}$

問題
$$3$$
 の解
 (i) $\lim_{x \to 1} \frac{x^3 - 3x^2 + 3x - 1}{x - 1} = \lim_{x \to 1} (x^2 - 2x + 1) = 0$
 (ii) $\lim_{x \to \infty} \sqrt{x} \left(\sqrt{x + 1} - \sqrt{x} \right) = \lim_{x \to \infty} \sqrt{x} \left(\frac{1}{\sqrt{x + 1} + \sqrt{x}} \right) = \lim_{x \to \infty} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{x}} + 1} = \frac{1}{2}$

(iii)
$$\lim_{x\to 1} \frac{\sqrt{x}-1}{x-1} \lim_{x\to 1} \frac{1}{x-1} \frac{x-1}{\sqrt{x}+1} = \lim_{x\to 1} \frac{1}{\sqrt{x}+1} = \frac{1}{2}$$
一般に $x=a$ に対して、 $\lim_{x\to a} \frac{\sqrt{x}-\sqrt{a}}{x-a} = \lim_{x\to a} \frac{1}{x-a} \frac{x-a}{\sqrt{x}+\sqrt{a}} = \lim_{x\to a} \frac{1}{\sqrt{x}+\sqrt{a}} = \frac{1}{\sqrt{a}+\sqrt{a}} = \frac{1}{2\sqrt{a}}$
会微分公式の作法で計算するならば、 $\frac{d}{dx}\sqrt{x} = \frac{1}{2}x^{\frac{1}{2}-1} = \frac{1}{2\sqrt{x}}$

問題 4

(i)
$$y=\sqrt{x}$$
 (ii) $y=\frac{ax+b}{cx+d}$ (iii) $\sin\left(2x+\frac{\pi}{4}\right)$ 工学 (iv) $y=\sqrt{x+\sqrt{x}}$ 工学 (v) $y=\log\left(x+\sqrt{x^2+2}\right)$ 工学 (iv) $y=\sin^{-1}\sqrt{1-x^2}$

(i)
$$y = \sqrt{x} = x^{1/2}$$
 では上の問題と同様に $\frac{dy}{dx} = \frac{1}{2}x^{\frac{1}{2}-1} = \frac{1}{2\sqrt{x}}$.

(ii)
$$\frac{dy}{dx} = \frac{a(cx+d) - (ax+b)c}{(cx+d)^2} = \frac{(ac-ad)x + ad - bc}{(cx+d)^2}$$

(iii)
$$\frac{dy}{dx} = \cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right) \times 2 = 2\cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right)$$

(iii)
$$\frac{dy}{dx} = \cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right) \times 2 = 2\cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right)$$
 ☆ $\sin \mathcal{O}$ 和公式をもちいて展開し、それぞれの項を微分し、その結果を逆にまとめても同じ結論になる。 (iv) $\frac{dy}{dx} = \frac{1}{2\sqrt{x + \sqrt{x}}} \times (1 + \frac{1}{2\sqrt{x}}) = \frac{2\sqrt{x + 1}}{4\sqrt{x^2 + x}}$

(v)
$$\frac{dy}{dx} = \frac{1}{x + \sqrt{x^2 + 2}} \times \left(1 + \frac{1}{2\sqrt{x^2 + 2}} \times (2x)\right) = \frac{1}{x + \sqrt{x^2 + 2}} \times \left(\frac{\sqrt{x^2 + 2} + x}{\sqrt{x^2 + 2}}\right) = \frac{1}{\sqrt{x^2 + 2}}$$

(vi) $y = \sin^{-1} \sqrt{1-x^2}$ から、 $\sin y = \sqrt{1-x^2}$ であり、両辺を微分する (微分の記号に注意, 左辺は y の関 数 $\cos y$ で、右辺は x の関数 $\sqrt{1-x^2}$ となっている)、

$$(\cos y) \, dy = \frac{1}{2\sqrt{1-x^2}} \times (-2x) \, dx = -\frac{x \, dx}{\sqrt{1-x^2}}$$

となる。 $\sin^2 y + \cos^2 y = 1$ より、 $\cos y = \sqrt{1 - \sin^2 y} = \sqrt{1 - (1 - x^2)} = x$. したがって $\frac{dy}{dx} = -\frac{1}{\sqrt{1 - x^2}}$